ISSN 0289—9302

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

ΚΟΣΜΟΣ

コスモス No. 95 1991 秋

特集 コンビニエンス —Lesen—

渋谷 健さん画（機械工学科1年）

特集

コンビニエンス―Lesen―

すっかり秋も深まって、あちこちから紅葉の便りがとどきます。
今回の特集は、今の季節にぴったり、『Lesen－読書－』です。
４人の方々に、それぞれの『読書』を語ってもらいました。
秋の夜長、皆さんも今こそ読書、そう『Lesen』です!!

本を愛するということは

榎本　真子

一冊の本との出逢いは男女の出逢いに似ている…という話を聞いたことがある。なるほど、と思った。

私の初恋の相手はヘルマン＝ヘッセの『車輪の下』だった。この物語とは、憧れのＳ先輩から別れの記念にいただく…といったわりと劇的な出逢いをしたわけだが、当時中学二年生の私はその本を何度もくり返し読んだ。

焦らず内容をじっくり味わいながらつきあっていくうちに、座右におきたいと思う１冊となった。

自分を刺激してくれる一冊に出逢い、その本に多くを語ってもらいたかったら、その相手とゆっくりつきあうことが肝心なようである。急いで読んでしまったために、本当の良さを見逃してきてしまっている本が何冊かあったかもしれない。そう考えていくとますます読書と恋愛は似ている…と思えてならない。

十冊の本と同時につきあえるＮ氏や、欲しいと思った本は古本屋を尋ね歩いてでも探し求めようとするＹ氏など、私の周りの人達の本とのつきあい方は様々だ。みんな本を愛して止まない人達であり、それぞれ好きなタイプも違うようだ。

私はといえば、読みたい本は次々と買い込み、消化不良をおこしている状態だ。自然と本の好みは似たようなものになるが、もしかすると本の方から選ばれているのかもしれない。

さて、先程の『車輪の下』の話。その後、夏休みの宿題に読書感想文が出されるたび、担当の先生がかわるのをいいことに引っぱり出しては、利用させてもらった。いくら初恋の相手とはいえ、何度も引きずりまわす（？！）あたり、ちゃっかりしているというか執念深いというか…。あれだけぼろぼろになるまでつきあえば、忘れたくても忘れられない一冊になるはずである。

（企画課　えのもと・まきこ）

借り読、積ん読、買っ読

河本　英夫

読書のしかたは様々である。多読、精読、乱読、雑読。図書館から本を借り出しただけの借り読（かりとく）、借り出した本を机の横に置いておくだけの積ん読（つんどく）。こんなものまで読書なのかと思われるかもしれないが、実は冗談抜きの読書なのである。借り読、積ん読だけでも、それがプレッシャーになって、現に読んでいる別の本を、かなり本気で読むようになる。ビデオ映画を見ていても、実に本気で見るようになる。だから図書館からの本の借り出しは、必要なものだけを借りるのではなく、限度いっぱい借り出すのが、豊かな読書の秘訣である。私は学生時代も今もずいぶんと積ん読をやっている。

読書の醍醐味は、なんと言っても乱読と読破である。一方ではとにかく何でも読む。漫画、雑誌を差別してはいけないし、特殊化してもいけない。理解しなければという強迫観念にかられる必要はない。一冊の本を読んで、まあ半分わかれば良いとあらかじめ決めておこう。そうこうするうちに、砂に水が浸み込むように理解できる本に出会う時が来る。まさに出会いである。

こうした出会いの後は、同じ著者、作家のものをすべて読む。全集のあるものはだいたい図書館に揃っているから、次々と借り読だけでなく、実によく読める。読破である。学生時代、読みたいと思って、図書館に希望を出して購入してもらい、結局読まないままになった本が何冊もある。うしろめたい気もしたし、無駄な負担をかけたという思いもあった。しかし今にして思えば、これこそ未来の読者の積ん読のための、買っ読（かっとく）だったのである。

（文学部助教授　かわもと・ひでお）

知の宝庫、コンビニエンスライブラリー

神田　雄一

誰の言葉だっただろうか？こんなのがあった記憶がある。「本を読みたいと思っている熱心な男と、読む本がほしいと思っている退屈した男の間には大変な差がある。」特に理工系の我々には“本”を“情報”と置き換えてもいいであろう。

十数年前、ノーベル賞受賞者を多数輩出したので有名なアメリカのベル研究所を訪れたことがある。ここで驚いたことの一つは、図書館の蔵書の豊富さもさる事ながら、広い図書館のコーナーごとに数台の端末機が置いてあり、ここからネットワークを介して全国の大学図書館、データベースにアクセスして見たい情報がすぐに入手できる事であった。しかも24時間開放しているとの事であった。最近ではわが国でもやっとこのような環境が整えられつつあるように思う。

私も数年前からパソコン通信によって海外のデータベースにアクセスして、最新の研究や技術開発動向を調べたりして講義の資料や論文の作成に役立てている。毎月どれほどの雑誌、報告書、論文あるいは特許などが出版されるのか想像もできないが、これらはまた様々なメディアによって提供されている。私が学生の頃は図書館で文献を探すのがもっとも良い方法だった。しかし現在のように膨大な情報から読みたい情報を探すには大変なエネルギーと時間を要する。そんな時、私の机のノートパソコンはもう一つの図書館になる。

コンビニエンスライブラリーを標榜する我が図書館においても、町のコンビニエンスストアーのように24時間いつでも情報が引き出せるように近い将来きっとなるでしょう。でも折角得られた情報を読まないのは、消化不良と同じです。それはあなたの責任です。

（工学部助教授　かんだ・ゆういち）

「いいなあ…。」

大坪　宏至

人間は「幸せだ」と感じられる時があります。何かに感動し、心が揺れ動く時です。感動への道はいくつもあるでしょう。

神奈川県の西の方に、ひとつの高校がありました。その高校は共学でしたが、１組だけは運動部の男子生徒ばかりの、いたずら好きのクラスでした。ある日のことです。１組で保健体育の授業がありました。いたずら好きの１組の生徒達は、いつものように教室の扉に黒板消しをはさみました。ところが、ベルが鳴っても体育の石田先生は教室に来ません。５分経っても、10分経っても来ません。先生は１組の毎度のいたずらに怒ってしまったのか、生徒達は先生がなかなか来ないことの理由を様々に推測し、何とも不安な気持ちになりました。石田先生が職員室に入るのを目撃した生徒がいましたので、学校を休んでいるということもありません。生徒達はますます不安になり、黒板消しを外しました。とうとう30分が過ぎました。その時です。職員室の方から１組に向かって来る足音が廊下に響きました。「来たぞ」誰かが叫びました。教室には一瞬緊張の空気が漂い、静まり返りました。廊下の足音は教室に近づいて来ます。足音は教室の扉の前に来ると止まりました。少し間をおいて教室の扉が開き、石田先生が入って来ました。先生の目は涙で濡れ、頬に涙が幾筋も流れていました。先生はしばし天井に目をやった後、涙も拭かずにこう言いました。「いいなあ…。男だよ。俺は今、職員室で山本周五郎の『柳橋物語』を読んでいた。最高だった。お前達も読んでみろ。」そう言うと先生は教室を出ていきました。先生は１組のいたずらを怒って遅れたのではなく、読書に夢中になり、感動していたので遅れたのでした。それ以来生徒達も読書するようになりました。

読書は感動するためのひとつの有効な手段です。図書館をおおいに利用して、感動してみてはどうでしょうか。

（経営学部講師　おおつぼ・ひろし）

図書館を利用する回数に個人差はありますが、工学部のほとんどの学生が図書館を利用しています。クーラーのある教室が少ないので夏は特に快適な場所として利用者も多いように思われます。試験前になると図書館は情報交換の場と化します。以前は月曜と水曜を除く平日の閉館時間が４時50分だと、不便を感じることもありましたが、今年の４月及び前期試験期に開館時間が延長されたので助かりました。ところで私は、カウンターにあるＣＤをよく借ります。クラシックが大半を占めていて、私の知らない曲が多いのですが、無料で借りることができるので、知らない曲を聴くのにもってこいだと思います。皆さんも利用してみてはいかがでしょうか。さて、最後に要望なのですが、実験や講義のレポートを書く時に使う本が古かったり、調べたい事が載ってなくて不自由を感じたのは私だけではないはずです。私は応用化学科ですが、図書館の専門書で役立ったと思える本はかなり少ないです。ぜひ学科の専門書を数も質も充実させて下さい。

（応用化学科３年　竹花　幸子）

― 利用者の 声・声・声 ―

利用者の皆さんは、日頃図書館をどのように見ているのでしょう。そこで今回は利用者の皆さんの声をいくつか拾ってみました（4ページもご覧下さい。）

私と図書館の良い関係（図書館＝幻想帝国説）

初めて大学の図書館に入り浸るようになったとき、僕はいっぱしの文学青年気取りで心は図書館の王様。古典文学、幻想文学、神話伝説、民族学そして数多の画集・写真集・百科事典の大海の中で、一日中、夢うつつで過ごした日々！今は狭い研究に没頭してしまって、図書館に来る事も、浮世（現実世界）の事になってしまったけれども、あの頃は、図書館こそ偉大なる幻想の帝国だった。少し失楽園した、社会人二年生の独り言です。

（校友　新江　利彦）

Q. 雑誌架，目録カードがアルファベット順に並んでいるが，50音順にしてほしい

Q. 貸出カードに記入するわずらわしさをなくしてほしい

Q. 文庫本の充実を！

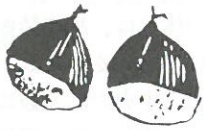
Q. 夏休みに図書館へ来たら，職員の人が，ヒゲを生やしていた。けっこう似合うかもウマ
でも，図書館で働くのに，いいのかしらん。
秋になったら，ヒゲはなかった。
夏の日の幻だろうか。

A. 雑誌架は主題別に配列するよう準備中です。目録カードについては洋書の目録との統一，伴名目録は和洋混配のためアルファベット順にしています。

A. 現在，貸出手続きを簡素化すべくバーコード方式の導入を計画中です

A. 朝霞では新しく「福武文庫」の継続購入を始めました

A. 多分それは幻…
だけど白山の図書館では運がよければまだ幻が見られます。



蔵書探訪7（貴重書解題）

『今鏡（新世継物語）』について

松園　宣郎

『今鏡』は、『大鏡』・『水鏡』・『増鏡』と共に「四鏡」の一つとされる歴史的物語であり、この「鏡物」の内、最初に成立した『大鏡』の後を承けて、第68代後一条天皇の万寿2年（1025）から第80代高倉天皇の嘉応2年（1170）までの146年間を記した作品である。

本学図書館には、その『今鏡』の写本が二種類所蔵されている。一つは『新世継物語』もう一つは『続世継（物語）』という書名である。

『新世継物語』は、一般には『畠山本今鏡』（畠山記念館蔵）と呼ばれており、『続世継物語』の方は、『尾張本今鏡』（蓬左文庫蔵）と、これを祖本とする流布本系『今鏡』の書名である。

ここでは、『新世継物語』を中心に取り上げてみようと思う。

現在のところ学界では、『新世継物語』（全23帖）は、『畠山本今鏡』一本のみとして知られており、諸本中、第1帖（室町期補写）を含み、最古の完本として、重文の指定を受けている。

さて、本学の『新世継物語』は、近世書写とされていて、全24帖（本文23帖・付帖内系譜1帖）、その体裁は、胡蝶装桝型本、寸法は縦・横共に15.7㎝前後である。表紙は全帖青地（縹色）で、中央の貼題簽に『新世継物語』とあり、それぞれ、その書名の下に「一」から「三十三」までの編序数が記され、その編に含まれる複数の章題名が表記されている。第1帖扉右上に「宗辰所集」の角朱印、同右下に「三井家」の印判があり、もと三井家（「三井高辰」）所蔵本であったことが知られる。内題は「新世継巻第一」とあり、以下、巻名・編数字・章題名が列記されている。本文は各丁9行、1行12・3文字平均に書写されている（ただし、10行書き、字詰めしてある帖もある）。章名は、内題として認めた章・全く認めていない章等があって、まちまちである。その奥書には「書写本云／承安五年之比以或人本書写早／右兵衛権佐在判／令所書写之本者前右京権大夫信／実朝臣／本也／（／は行を変えた部分を示す）」とある。こうした点について、『畠山本今鏡』所謂『新世継物語』（影印本・財団法人日本古典文学会刊）と照合してみると、本学の『新世継物語』と、帖立ての編成や内題・目録、本文12・3文字×9行（10行書きの部分も別の帖にあって違いがあり、1行の文字送りなどは必ずしも一致していないが）の点、漢字体の誤字、誤った年時、人名の誤記の点など、同じに重ねることができる。「畠山本」は、その影印本解説によると、胡蝶装・縦・横多少の違いはあるものの、略共に15.5㎝前後、表紙は、墨流し、金銀切箔、野毛などによって様々な意匠が施され、その左肩に編数字と章名が記されている。その奥書は「或人之本」の部分に「之」の脱字を認める以外、行割りなど全く同じである。

以上の諸点から、本学図書館蔵の『新世継物語』は、畠山本系に属する書誌と認めてよいかと判じられる。そして、このことは、『新世継物語』とする『今鏡』がただ一本しか存在しないとする認識を訂正しなければならないということになろう。

更に、本学の『新世継物語』には、第15帖・第23編・第51章の「かりがね」（33オ～41ウ）について、この部分、『尾張本続世継物語』には補入されたような本文が認められるのであるが、その補入本文の中央部分を省いた異同のある本文を、同章末尾に「かりがねの中為相卿自筆の本に」と頭書して添えている独

自性のあることが認められる。

この「為相卿」に就いては、本学『新世継物語』に付された、登場人物について注釈する「新世継物語内系譜、二十二唐人遊、二十三旅祢床・弓音・雁音・二十四万寸見影」の奥書に「右此一冊者以冷泉中納言／為相卿自筆之本雖令／書写之其本前後闕之間／他日需正本可補之而已／」と記されている。その内容の相当分から判じて、この「内系譜」は全10帖程あったのではないかと察せられる。

『今鏡』は10巻・33編・80の章から成るとされている。すべらぎの巻（帝紀）3巻13編26章、藤波の巻（藤原氏列伝）3巻13編32章、村上源氏の巻（源氏列伝）1巻3編9章、御子たちの巻1巻2編5章、昔語1巻1編5章、打聞1巻1編3章である。

「尾張本」系は、この10巻仕立てに合わせて10帖本になっているが、「畠山本」の方は23帖である。従ってそれを10巻編成に分けていることになるが、本文にはその巻の区別をしておらず、むしろ、23帖33編に分けた方が自然に受取れるようである。

次に、『今鏡』の内容について、簡単に指摘する。

『大鏡』は、藤原氏摂関政治を背景に道長の栄華の由来を明かすという主題のもとに、第55代文徳天皇から後一条天皇までの176年間を紀伝形式の編成によって、高齢な翁二人と若侍を中心とする戯曲的な対話文で綴り、語りの場を京の雲林院の境内に設定している。

『今鏡』は、より紀伝形式に近い編成を立てながらも、対話文の形式は充分に生かされてはいず、その記述は、『大鏡』の主たる語り手の翁の孫女「あやめ」なる老齢な嫗一人に語らせる手法をとっている。語りの場は奈良春日野の辺り、聞き手は長谷寺詣でから巡礼をしている京の婦女の同志達である。その嫗「あやめ」は娘の頃、上東門院彰子に仕えた紫式部の局に奉仕したとされ、五月五日誕生の縁から「百錬鏡」（白氏文集）の鏡を指摘、式部によって、「大鏡」に対する「小鏡」・「古鏡（大鏡）」に対する「今鏡」と愛称名を受ける。そして、『源氏物語』の書名を掲げて、筆が進められる。

その描く時代は、摂関家の衰退期と院政の時期であった。上皇や天皇・皇室姻戚の家系の変遷を柱に、帝・氏別に人脈を辿り、中心人物・周辺人物の逸話を添えながら、有職故実などにも触れ、整然と丹念にまとめられている。その逸話の特色は、「文化史的」作品といわれるように、芸文韻事（和歌・書・芸能・学問の才・風流）や仏教信仰面の記事が殆どである。その点では、『大鏡』のように主題を明確に把握することが難しく、従来、その作者は（寂超とされる）、政治には無関心で、荘園貴族の華奢な消費生活を描いていると目されてきた。或いは、巻末に「源氏物語方便説」による紫式部観音化身を論じる一章を付しているので、記事の片々と照応させると、作者の底流には『源氏物語』の世界を準えてみようとする心持ちが反映しているものかとみることもできる。また、最近では、その作者に政治意識を探る論も発表されるようになり、作品の裏側に潜む意図が解明されれば、その主題も一層はっきりしてくるものと考えられる。

（短期大学助教授　まつぞの・のぶお）

《表紙の絵》

秋といえば、芸術の秋、読書の秋……。今回は、工学部の学生にも書いてほしいとの要望があり、機械工学科1年の渋谷健君に、秋のイメージにふさわしい一コマを描いてもらいました。

図書館 あ・ら・かると

★ 白山 見て見て聞いて ★

秋の図書館ガイダンスを開催中

白山図書館では、10月21日（月）～11月8日（金）の期間中、これから卒業論文に取り組む学生のみなさんを対象に、資料検索のガイダンスを行っています。内容は参加者の希望されるテーマにそった書庫案内、資料紹介、データ・ベース検索指導です。今回は準備に万全を期して、事前申込制です。

実は、既に申込の受付は締め切られているのですが、「KOΣMOΣ」の読者は特別に参加申込を受付けます。必ず「コスモス」をお読みになったことを一言そえて、カウンターまでお申し込みください。

Welcome to our Library

現在白山図書館の共同研究室では、国際交流センター主催の日本語集中講座が開催されています。参加されているのは、本学との協定校である、マールブルク大学（ドイツ）とダブリンシティー大学（アイルランド）の学生12名のみなさんです。共同研究室利用期間は、12月21日までです。期間中の各方面にわたるご協力をお願いします。

ご存知ですか?国際機関刊行物コーナー

昭和63年度より収集されてきたILO、OECD、UNESCO等の刊行物コーナーが参考雑誌室入って右奥に設置されています。こちらの資料は一般図書と別枠で貸出しますので、貸出を希望される方は貸出返却カウンターまでどうぞ。

★ 朝霞 見て見て聞いて ★

この夏、朝霞分館を高校生に開放しました。大勢の高校生の利用があり、好評でした。

あんたが主役!!自由文庫

入口脇に設けられた新コーナーです。本を通した交流の場として、家の本棚で眠っている本、だけど捨てられなーいなんて思っている方は、是非自由文庫へ。又、この本読みたかったんだなんていう本が見つかったら儲けもの。自由に持ち帰って下さい。

返却ボックス設置

これで閉館時でも図書の返却ができます。ブックポケットに貸出カードを入れて利用して下さい。場所は図書館入口。なお、開館時間中は利用できません。

★ 工学部 見て見て聞いて ★

工学部では、10月より3号館一階に、視聴覚室が開設されました。

利用時間：月～金 9：10～16：30
：土 9：10～12：30

利用手続等、詳しくは視聴覚室におたづね下さい。

尚、CD、ビデオなど新着多数取りそろえてお待ちしております。

★編集後記★

夏休みが終って、一気に秋に突入。そして『Lesen』の季節……。

また、今回の企画「利用者の声」にはたくさんの反響があり、全部載せることができませんでした。悪しからず……。

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN **KOΣMOΣ**
1991秋（No.95）1991年10月21日発行 編集：コスモス編集委員会 発行人：山崎正巳 発行所：東洋大学附属図書館 〒112 東京都文京区白山5丁目28番20号 Tel. 03(3945)7314 ©東洋大学附属図書館 1991